

事業所における自己評価結果（公表）

令和5年度

	チェック項目	はい	いいえ		課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
①	利用定員が指導訓練等のスペースとの関係で適切である	10 100%			・広さは確保されているので、今後は仕切りの活用方法も考えていきたい
②	職員の配置数は適切である	10 100%			・活動内容や利用者の人数に合わせて職員配置を行っている。
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8 80%	2 20%		・シンクやトイレ等に絵カードを置いて視覚支援をしている ・集中できるような活動を行っている。 ・鍵を高い位置に設置している。 ・バリアフリーになっている。 ・視覚支援を行っている。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9 90%	1 10%		・ホールの仕切りを使用していないことで広い空間を使用することが出来ている ・活動によってはホールが広すぎるので別室で活動を行っている ・毎日掃除を行っている。 ・訓練室やスヌーズレン室等活動に合わせた部屋を設けている。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	8 80%	無回答 2 20%		・定期的に職員会議を行い報告確認、検討事項等を話し合っている
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	8 80%		無回答2 20%	
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1 10%	5 50%	無回答4 40%	いいえの回答について 今回が初めてのため
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3 30%	3 30%	無回答4 40%	
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10 100%			法人研修や事業所内研修を定期的に行っている

	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10 100%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用前にアセスメントを行い保護者の願いや情報を基にして支援計画を作成している。</li> <li>・定期的にモニタリングを行っている。</li> </ul>
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9 90%		無回答 1 10%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントシートを作成し、活用している</li> </ul>
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8 80%		無回答 2 20%	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10 100%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画をファイルに入れ職員全体に共有している</li> <li>・一人ひとりの支援計画書を確認しながら支援を行っている。</li> </ul>
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6 60%	2 20%	無回答 2 20%	その日の活動がどの支援に繋がっているかや目的をもう少し判り易く明確にした方が良い。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9 90%	1 10%		調理保育や季節の行事を取り入れている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9 90%	1 10%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に応じた個別活動と集団活動を組み合わせて行っている。</li> </ul>
	⑰	支援開始前には必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9 90%	1 10%		各々で担当を持ち支援内容を考えているため、日毎の打ち合わせをしていない。一日の活動の内容は大まか決まっていない。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	9 90%		無回答 1 10%	書面に各々で記入し、支援を振りかえっている。その記録を皆で共有している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9 90%	1 10%		

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10 100%			1か月、3か月、6か月ごとに個々のモニタリングをしている
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参画している	8 80%		無回答 2 20%	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した胃炎を行っている	8 80%	1 10%	無回答 1 10%	子どもの発達を支援する会に参加している
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4 40%	2 20%	無回答 4 40%	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3 30%	3 30%	無回答 4 40%	直接は連rなくはしていない
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8 80%	1 10%	無回答 1 10%	・個別に電話で園での様子をきくことがある。 ・個別ノートを各関係機関で情報共有している ・一部は行っているが全てではない。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3 30%	4 40%	無回答 3 30%	・まだ卒所して小学校へ入学した児がいない
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8 80%	2 20%		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	10 100%			
	㉙	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子ども子育て会議等へ積極的に参加している	5 50%	1 10%	無回答 4 40%	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10 100%			・連絡帳を活用したり、送迎時に伝え合うようにしている。

	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	3 30%	3 30%	無回答 4 40%	
	③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9 90%			
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9 90%		無回答 1 10%	
	③④	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9 90%		無回答 1 10%	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4 40%	4 40%	無回答 2 20%	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10 100%			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動状況や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9 90%		無回答 1 10%	
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	10 100%			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10 100%			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5 50%	4 40%	無回答 1 10%	
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10 100%			
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10 100%			・色々な想定を基に定期的に訓練を行っている。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	10 100%			

	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10 100%			
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10 100%			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9 90%	1 10%		・研修を行い虐待委員会を設けている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8 80%	1 10%	無回答 1 10%	・身体拘束を行う児童がいない。